

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	<個別の記録と実践への反映> ケアプランの周知不足により、介護方法の一貫性も不足している所がある。	周知の徹底を行い、安全かつ安定したケアサービスの提供が出来る。	①入居者との関わりで得た情報が、モニタリング・ケア会議、申し送りを通して情報の共有や検討、確認を行っていきける。 ②①によりケアの質の向上を図る。	12ヶ月
2	35	<災害対策> 併設の施設と合同で消防訓練を行い地域の方に見学をしてもらうことができたが、こころ主体の訓練が出来ていない。	こころの消防訓練に地域に住む方の参加、又は見学をしてもらうことができる。	①災害に対する勉強会の実施。 ②推進会議などを通じ、地域の方に消防訓練に参加してもらえるよう声をかける。 ③発電機や備蓄品の定期的な確認を行う。	12ヶ月
3	14	<同業者との交流を通じた向上> 交換実習などで得た情報を、積極的に活かす事が出来ていない。	「やってみたい、行ってみたい」を1つでも実現できるようにする。	①入居者を含め「やってみたい、行ってみたい」の意見を募る。 ②企画実現のための計画(シュミレーション等) ③実現	12ヶ月
4	33	<重度化や終末期に向けた方針の共有と支援> 定期的な勉強会が出来ていない。	ターミナルケアについての関心を持ち、スタッフが知識を深める事が出来る。	年2回ターミナルケアについての勉強会を企画・開催する。	12ヶ月
5	55	<一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり> 入居者の重度化にともなった環境作りが不足しており、結果、職員の心身の負担も多くなっている。	環境整備や業務内容の見直しを行い、一人ひとりにあった正しい介助・認知症ケアが出来るようになる。	①生活環境の見直し、改善 ②個々にあった介護方法や認知症ケアについての勉強会の実施	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。